



# スカトロジーの ネトリエ

～春のヒロイン公開脱糞祭2014～

私、エスカ・メリリエ。コルセイトの町で働いている  
錬金術士です。長年の夢だった未踏遺跡の調査を終えた  
私はあれからロジューさんと約束した立派な錬金術師に  
なるために一生懸命奮闘しています。

でもある日、素材集めにと一人で山に  
入った私は、隠れていたたていた手配犯に  
捕まり近くの廃屋に連れ込まれて  
しまいました……。



「へへへっ」いつ錬金術師だぜ。こりや思わぬ上物を拾ったぜ」  
「ふええ…：貴方たち誰れふかあ？なんだか頭が  
ポワポワれひゅう…：♡」



「クスリが相当効いてるようだな。うお！すげえおっぱい」  
「おうおう可愛いパンツ履いてるねえ。どれ邪魔だし  
取っ払ってやるか」 「ひえ…？」

「おまんこ御開帳♪おっほ綺麗なピンクまんこだぜえ。」

「ふやあちめれふ…エスカの大事なところ…見ちゃ…」



「全然使い込んでねえな。おい早く代われよ」

「よっしじゃ早速一発目いくか。おりやつ」

ズブツッ!!...「うおキツッ!!」りやあ処女かな」

「ふええ...?にやにこれえ?エスカの体  
どうなっちゃったんれしゅかあ?...アソコが  
ジユクジユクしてりゆう...♡」

「どうって、そりやまんこにチンコぶち込まれてるんだよ。  
セックスだよセックス。クスリのおかげで処女喪失の痛みは  
無いみたいで良かったな」

「しえっ...しえっくしゅっ...うっ、うそお...」



「やめてくだひやいっ…ロジーさんにも…まだ…」

「もうおせえよ。エスカちゃんの好きな人はロジークンて言うのから。知らないうちに彼女の処女を知らない男に奪われるなんて可哀そうな奴だね(笑)」

「うっ…そろそろ射精そうだ…っ！」

「や、やあーっ！」





ドブツ!!ドブツ!!ドブツ!!  
「あ...あ...あ...」

「ふいゝ中々の名器だったぜ」  
「おいはやく代われよ俺は尻穴の処女を戴くぜ」



「あつちつ……ちつちつ……『ツク……ロゾーしゃん……』  
「せんなひやいららら……っ」

「あらあら泣いちゃったよ」  
「安心しな。一通り仕込んだらちゃんと町まで送ってやるから」



「数日後……」「も……もう帰って良いって本当ですか？」

「最初に言っただろう？街まで送ってってやるってよ。」

「まあ、「こ」数日の調教と投擲で体は快楽を覚えちゃまってるだろうが」「  
「っとその前に」」



ブチツ

「あっ！返してください！  
その尻尾は大切なものなんです！」



「けっいたいな物付けやがって……安心しろよ。  
すぐ返してやるからさ……カチャカチャ……ホレツ！」

ボギヨンツ!

「っあぐうっ! な、なにを……?」

「何って尻尾を付け直して  
やってるんじゃないか。」

「ほら、力抜かねえと自分がきついぞ」

ボリユンツボリユンツ

「くきやっ! おぎやあっ! やべでえっ! お尻壊れちゃうっ!」



「よおーし全部入ったな。やっぱり尻尾と言ったら尻から生えてないとな」

「あ……あ……おしり……おしりがあ」

「おーおーケツ穴パツンパツンに広がっちゃって。こりやもう戻らないかもなあ」

「……!? な……なにかお腹の中に出ています……!」

「ああ、そりや浣腸液だよパール先の先っちょから出るようになってるんだ」

「か……んちよう……?」

「ほらいいから歩け。」「のままの状態で街まで行くぜ」「ひいひい」





グギユルルル……

「ひい……ふう……お腹が……お腹が……  
お願いしまひゅ……途中でっ……  
おトイレに……」

「ダメだ。我慢しろ。もし逃げ出してトイレに駆け込んだりしたら、  
クスリはもう無しだからな」

「お……くしゅ……り……？ふあっ……あうっ」

「(禁断症状寸前な上に便意と羞恥心で訳が判らなくなってるな……  
そろそろか)……しようがないな、じゃあトイレに行かせてやるか」

「ふああ……おトイレえ……」



「ただし、条件がある。今この場でするんだ」

「……………でれしゆか？」

「ああそうだ。この場で寝転んで、お前の知り合いが見てる中で自分でアナルビーズを引っこ抜いてクソをぶちまけるんだ」

「ああ……そんな……しよんなあ〜」

「もし出来たらいつもの倍のクスリをやるぞ」

「倍っ？」



「(ククク……終わったな)」

「……はあー……はあー……ウンヨ……じだいっ……倍の……おくしゅり……」





「お、おい何だあれ……」

「あれ、最近行方がわからなくなっていた

エスカちゃんじゃないか……?」

「なにやっつてるんだ……あれ……し……尻の穴に」

「エへへ……ウン……おくしゅら……」





「ふっんっ! うううう!  
抜けにやひいっ!  
グブツ! ジュブツ!

「うわっ! やっぱ尻穴に  
刺さってる!」  
「エスカちゃん!  
なにやってるんだ!」





「うわあっ!」

「きゃあ!変態!」

「あ…ああ…やったあ…にゆけたあ…  
皆が見てる前で…うひひ…  
うぐうっ!」

グギユルウウ

「な…なんだ!？」



ゾクツゾクツ

「あ……やっ……ひや……つたあ……♡街頭脱糞噴水アクメ  
決めちゃったあ……♡子供の頃から知ってる街の人達に、  
エスカの脱糞絶頂顔もお尻の穴の中身も全部見られ  
ひや……つたあ……♡も……う……♡終わりで良いやあ……♡  
錬金術も人としての生活も  
ロジ……しゃんとの遠距離恋愛も……  
全部……御仕舞いにやのお♡  
おくしゆりとチンポがあれば  
しよ……れ……で……い……い……の……お……♡」



「ハッハッ！」主人様おはようございますー！」

「まさか翌日に戻ってくるとは思わなかったぜエスカちゃん」



「約束のおチンポとおクスリが早く欲しくて、病室抜け出してきちゃいました！」

「全く悪い子だな……大体チンポの約束なんかしてないだろうが……まあいいや、尻出せ」

「はいっ♪」

ドズウツ!

「うくうっ! き...来たっ! これっ! 堪らないでしゅうっ...!」

「おらっ! もっと気合入れて締めないとクスリの量減らすぞ!」

「やらあっ! おくしゆり欲しい!

頑張っておまんこ締めましゆからあ!」





「そろそろ射精るぜ！ふんっ！」

「ゴブウっ！！」

「んひゅっ！」



「ふうっ……ふうっ……ふうっ……」

「ふう……おい奴隷。お前、この尻穴のビーズは自分で入れてきたのか」

「そ……そうでしゅ……ご主人様に一気に引き抜いて欲しくて……」

「頑張って一個一個お尻に埋め込んできましたア……♡」

「良い心がけだ。お望みどおりぶっ抜いてやるぜ。そらよっ……」



チュボボボボンツ!

「くペえーっ♡」

「はははなんて声出してんだよ!まるで獣だな!」  
「ひっでえアへ顔!美人が台無しだぜ!」



「あ……ありがとう」「じゃいまひたあ……それで……」

「クスリだろ。ほらやるよ。拾え。口でだぞ」

「ひえへっ！ふひえへへへっ！」

「で、どうする」「いつ」

「そうだな。しばらくは楽しませてもらおうぜ。もちろん「いつ」に

家まで全財産取りに行かせた上でな。こいつ公務員らしいから、

当分暮らしには困らないだろ。用済みになったら、その時は……」



十カ月後……

「えへへえ……♡もっとお♡もっとおエスカの  
おまんこにザーメン飲ましえてくらしゃいい……♡」



「大分腹が膨れてきたな」

「日数的にもそろそろ出しな。よしエスカ。」

「今日はちよつと遠くまで散歩に行くぞ」

「ふええ……？」

「ご主人様あ♥早く早くう♥置いてっちやいますよお？」

「エスカちゃんもすっかり変わっっちゃったな。最初は処女奪われて泣くような清纯派だったのに」

「ケツ穴もまんこも閉じなくなっちゃって、今やもう立派な肉便器なものな」

「ああ……♥久しぶりに街の皆に会うのとっても楽しみですう〜♥」



「アハア♥ヨルセイトの皆さんお久しぶりですう♥  
元錬金術師のエスカ・メーリエですう♥今はご主人様のオマンコ  
ペットをさせていただいていますう♥」

「うわっ変態だあ！」



「あ、あれ、前に「こ」でウンコしてた娘じゃない？なんで……」

「今日はエスカのポテ腹ガバマンセックしゅタツプリ見ていって  
下さいね♥」

ズチユツ！ズチユツ！

「うわあっ！こんな道端でセックス始めたぞー！」  
「信じらんない」

「ふああ♡やっぱり見られながらのシエツクシユは  
格別れしゅねえ♡」

「うし、とりあえず一発射精すぞ」





ドボボボボツ!

「んへえ♡イクツ♡イクのお♡恥晒しセックス最高お……♡」

「さて、次は……お？」



「うぐう！お。。。お腹が。。。痛。。。う。。。動いてりゅ。。。？」

「ビビッ！ナイスタイミングじゃねえか。よし豚。ニニで産め」



「あはあ……うひい……私とうとう……本当に……  
やっちやうんだあ……」

「な……なんだ？今度は何をやる気だ？」 「まじか……」

「これでもう本当に人間には戻れなくなっちやうんだ……  
その辺の野良犬や野良猫みたいに、どこでも子供を  
作って産むただの動物エスカに  
堕ちちやうんだあ……♡

「考えただけでまたイツちやう♡」







「ふんぎよおおおおおつ！」

ゴボリヨリヨリヨッ！

ビクッ！ビクンッ！ビククウッ！

「きゃあああああー！」 「うわあー！本当に出産したあー！」

「えへっ…えへへっ…赤ちゃん…生まれひやあ…」

アクメとまらなひよお…産道シエックシユ最高なのお…

見れえ…わらひのガパガパの子宮口見れくらひやあい…」



「あーあー。完全に正気を失ってるなあれは」

「最近飽きてたし丁度良いだる。それじゃあ適当なところ売っ払って

その金で外国にでも

飛ぶとしようか」



ロジーさん。今もお元気で過ごされてますか？私は最初に貴方に謝らなくてはならないことがあります。ロジーさんとお別れするときに交わした「きっと次に会う時までには立派な錬金術士になる」という約束、もう守れなくなってしまいました。ごめんなさい。

今の私は錬金術士ではなくホムンクルス生成実験用の生態錬金釜として、とあるアトリエの備品になっているからです。でも、私は代わりに立派な錬金釜になれるように頑張っています。もう17人も産みました。これはアトリエでも新記録らしいです。最近の固定器具は母乳と排泄物を分解して栄養のみを自分に戻してくれるので補給がいらず、とても低コストで運用できるんですよ。アトリエの人達も皆良い人で、私を番号じゃなく名前で呼んでくれるし、週に一度の水洗いと月に一度の洗浄、整備作業は欠かさずしてくれます。

錬金術士にはなれなかったけど、私は自分の体が錬金術の発展のため、ひいては皆さんの生活の一助になることがとても光栄で誇らしいです。ロジーさんも飛行機の開発を頑張っていらっしゃるのでしょうか？

ロジーさん。私、貴方のことが好きでした。もう人間どころか動物ですらないただの機材になってしまった私は今更愛して欲しいなんて言わないけれど、せめてもう一度だけ、会いたいです。



「お、破水が始まったな」  
「よし、まずは自力で出せるところまで出すんだ」

生態練金盆  
三式二型

E-101023  
出産回数  
正正正T

子宮使用中

プ  
ッ  
シ  
ユ  
ッ  
「んうっー!ぴゅぴゅらうらうらうっー!」



ズチユツ！ズチユツ！

「んびゅっ！ぴゅうううっ！」

「そろそろ限界か？」

「これだけ産んでるんだから子宮口は大分ゆるゆるになってるはずなんだがなあ。しょうがない」

「ぴっっぴゅらーぴゅらー！」

「はいはい嫌がらないの。こっちだって予定があるんだからサクサク産んでくれないと。よっー！」

生態練金盆  
三式二型

E-101023  
出産回数  
正正正T

子宮使用中





「ふー産まれた産まれた。今回は難産だったな」

「ぴ……ふう……ぴ……ふう……」



「膣の押し出す筋力が低下してるんですかね。運動メニューを調整しますか？」

「いや、機材班に自動で膣肉を鍛えてくれる機能を付与出来ないか要望してみよう」

さらに数カ月後……

「あれ？ここにあったエスカちゃんは？」 「エスカちゃん？  
ああ、E-101023号のことですね。先週廃棄処分に  
出されてましたよ。さすがに子宮が限界でしたからね。  
ところで、錬金釜の名前で呼ぶなんて珍しいですね」

「いや、あの錬金釜、名前で呼ぶと自分から積極的に  
実験に協力してくれるから扱い易かったんだけど……」  
「なんすかそれ。自分のことを研究協力者の一員だとしても  
思ってたんですかね」 「さあな。まあ、廃棄されちゃったのなら  
仕方ない。次の娘で実験しよう」  
「今度の内容はどんなのなんですか？」 「えーと……」

~fin~